

平成28年11月把握分

(平成28年11月21日現在)

番号	発生年	発生月	時刻	業種	規模	事故の型	起因物	災害の状況
1	28	4	10時台	水産業	10人未満	その他	起因物なし	被災者は、つぶ籠漁船において操業中、同僚が船上で胸を押さえて倒れている被災者を発見したため、操業を切り上げ帰港し救急搬送したものの、急性心筋梗塞で死亡したものの。
2	28	5	11時台	道路貨物運送業	10人未満	交通事故（道路）	動力運搬機	被災者は、回送するトラックを運転して回送先に向かっていたとき、交差点で赤信号のため停車しようとした減速していたトレーラーに追突したものの。
3	28	9	16時台	小売業	30人以上49人	墜落・転落	仮設物、構築物等	被災者は、個人住宅へタ刊を配達中、雨で濡れた住宅の階段上で足を滑らせ仰向けの状態で転落して頭部を強打し、気を失っていたところを外出から帰宅した住人に発見され、医療機関で治療を受けていたがその後死亡したものの。
4	28	10	7時台	土木工事業	30人以上49人	おぼれ	分類不能	被災者は、道路建設工事において、朝の作業打ち合わせ前に現場状況の確認作業へ向かった後、打ち合わせ場所に戻ってこなかったため当該事業場の作業員が探しに行ったところ、横断管施工箇所（のり）に設置した水中ポンプにうつ伏せ状態で溺水により倒れているところを発見されたものの。
5	28	11	10時台	林業	10人未満	激突され	環境等	被災者は、私有林の間伐作業において、一人でトドマツ（樹高約18m、胸高直径48cm）を伐倒後、当該伐倒木の上で枝払い等の作業中、隣木のトドマツ（樹高約16m、胸高直径24cm）が被災者の方に徐々に倒れ、伐倒木との間に挟まれたものの。
6	28	11	11時台	建築工事業	10人以上29人	交通事故（道路）	乗物	被災者は、建設工事現場での作業を終え、会社に戻る社有車の後部座席に乗り込んでいたところ、乗車していた社有車が片側1車線の道路のカーブで路外に逸脱して横転し、車外に投げ出されたものの。
7	28	11	8時台	道路貨物運送業	10人以上29人	交通事故（道路）	動力運搬機	被災者は、生コン車で生コンクリートを運搬するため、生コンクリート工場から建設工事現場へ向かって直線道路を走行していたところ、アイスバーンの路面でスリップして対向車線にはみ出し、路外逸脱したものの。

平成28年11月把握分

(平成28年11月21日現在)

番号	発生年	発生月	時刻	業種	規模	事故の型	起因物	災害の状況
8	28	11	11時台	土木工事業	30人以上 49人	墜落・転落	動力クレーン等	被災者は、急斜面の維持管理工事に於いて、斜面上で伐木した樹木を移動式クレーンの補巻きフックに玉掛けして地上に降ろす作業に当たって、同クレーンの運転手に合図を送るため主巻きフックに玉掛けした専用の搬器に搭乗していたところ、高さ約13mから搬器と共に墜落したものの。
9	28	11	21時台	その他の事業	100人以上 299人	墜落・転落	仮設構造物、建築物等	被災者は、ダム管理所の夜間警備及び情報連絡業務を単独で行っていたが、午後9時30分頃、施設管理者の担当者に停電通知メールが自動送信されたため、原因調査のために当該担当者が午前0時10分頃にダム管理所を訪れたところ、玄関横に倒れている被災者を発見したものの。屋上に設置されたアンテナを点検していたところ停電となり、屋上から地上まで8.45m墜落したものと推定される。
10	28	11	14時台	建築工事業	10人以上 29人	転倒	動力運搬機	被災者は、太陽光発電の工事現場において、高台にある資材置き場に停車していたフォークリフトを約1km先にある別の資材置き場に移動させるため、フォークリフトを空荷状態で勾配11度のアスファルト舗装された直線の私道を前進で下っていたところ、フォークリフトがバランスを崩して横転して運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなったものの。
11	28	11	14時台	その他の接客娯楽業	10人以上 29人	激突され	動力運搬機	被災者は、ゴルフ場において、一人で停車中の散水車後部に取り付けられている散水タンクを取り外すため、車体底部にもぐりこんで作業中、散水タンクが脱落し激突されたものの。
12	28	11	12時台	建築工事業	10人未満	感電	電気設備	被災者は、家屋解体工事に於いて、同僚4名とくさび緊結式足場(一側足場、5層)の組立作業に従事していたところ、5層目の足場コーナー部で手すりの設置作業中、足場を斜めに横断していた送電線(6,600V)に触れて感電したものの。
13	28	11	11時台	小売業	10人未満	交通事故(道路)	動力運搬機	被災者は、道道をタンクローリー車を運転して走行していたところ、何らかの原因でセンターラインを超えた状態のまま走行し、対向車線を走行していた大型ダンプトラックの運転手がセンターラインを超えた状態で走行しているタンクローリー車に気付いて急ブレーキをかけて停車したが、タンクローリー車が大型ダンプトラックに正面衝突したものの。